

す。このから、皆が安全のために安心して暮らせるまちづくりのために

題材法話

浄土真宗のみ教え④

「凡夫」前々号よりのつづき
 ＊拝読本をお読み下さい。
 煩悩に束縛された存在が
 「凡夫」であり、その煩悩が
 「モノ」によって私に苦しみ
 「モノ」に縛られて、自分です
 しんでいるということで苦し
 た。
 うでは一体、その凡夫はど
 うすれば救われるのでしょ
 うか？
 ○仏教―凡夫の自覚
 曹洞宗の開祖・道元禪師
 は「仏道をなろうというは
 自己をなろうなり」と仰ら
 れました。
 ジャーナリストの池上彰
 氏は、「仏教を知ることには
 己を知ること」と仰っています。
 また昔の言葉に「鉄砲は
 他人を撃ち、仏法は己を撃
 つ」という言葉があるそう
 です。
 医師が治療する
 時に一番やっかい
 な患者は、自分が
 病気であることを



認めない患者であると聞い
 たことがありません。聞い
 は、自分の病気を治すため
 知ることが必要です。か
 病気の原因や、良くなる
 方法には信頼できる医師に
 かけるより自分にはありま
 さんが、まず自分に病気の
 覚がなければ、必要な治
 も投薬も受けようとはしな
 いでしよう。
 お釈迦様は人間を煩惱に
 束縛された迷いの存在であ
 ると見抜き、その迷いから
 解き放たれる道を示して下
 さいました。が、まず私
 自身がどのよう存在であ
 るかに気付くことがスタ
 トです。
 ○凡夫のままの救い
 お釈迦様の八万四千とい
 われるご説法の中で、日本
 でもつとよく読まれてい
 るお経に「般若心経」があ
 ります。
 「般若」とは「智慧」と
 いふ意味で、煩惱に束縛さ
 れた私達が智慧の
 眼を磨き、よこし
 まな考えを捨て、
 ありのままに物事
 を見て迷いから脱



する教えが説かれているの
 が「般若心経」です。の
 が「般若心経」です。の
 を得ようとする聖道門の宗
 派では、最も大切にされる
 お経です。
 けれども、そこに示され
 る智慧の実践は、とても私
 にはかないません。
 親鸞聖人も20年間の比
 叡山の聖道門による厳し
 い修行の結果、たどりつか
 れたのが「いずれの行もお
 よびがたき身なれば、地獄
 は一定すみかぞかし」(地
 獄しか行きようのない身)
 という自分だったのです。
 然上人と巡り会い、その法
 めよ、まかせよ、そのま
 でよいぞよ」との阿弥陀様
 のご本願に出会いになら
 れたのです。
 阿弥陀さんは「煩惱を捨
 てなさい」と諭すのではな
 く、私たち一人ひとりを、
 そのまま受け入れてなく救
 い取って下さるのです。
 凡夫である私を救
 うことが目当てな
 のです。
 親鸞聖人は、



「それほどの業をもちける
 身にてありけるを、たすけ
 んとおぼしめしたちける本
 願のかたじけなさよ」と、
 悦んでおられます。
 ○信心を得た凡夫の生活
 私たちは、南無阿弥陀仏
 の信心を頂いたとしても、
 煩悩がなくなるわけではな
 く、命終えるまで際限なく
 沸き起こります。
 分の肖像画に「角」を書き
 足してもあらったというエ
 ソードがあります。
 かしい凡夫の生活です。恥
 出二門偈の中で「真実信心
 を頂いた人は、凡夫に変わ
 りはないが、如来の真実が
 至りとどいているという意
 味で、ただの凡夫ではなく
 なり、ほめたたえられます
 在です」と仰っています。
 「凡夫」の自覚の中で、
 報恩と感謝の念が生じ、欲
 や怒りの起こり方が少なく
 なり、弱くなっていくな
 うことで、これが念仏者とい
 うことか。完
 しょうか。